

2010年度のレビュー

リコーの連結売上高は、前年度に比べ3.7%減少しましたが、製品販売量は増加し、それに伴って原材料・部品調達、生産などのステージで環境影響が増加しました。使用・電力、使用・紙のステージでは、カラーMFPの省エネ技術開発と、お客様先での省エネ機能、両面コピー機能の利用率向上の取り組みの成果で環境影響が減少しました。結果として、リコーグループ全体の統合環境影響は前年度と比較して1.9%増加となりました。

(新規事業、開発途上国の取り扱い)

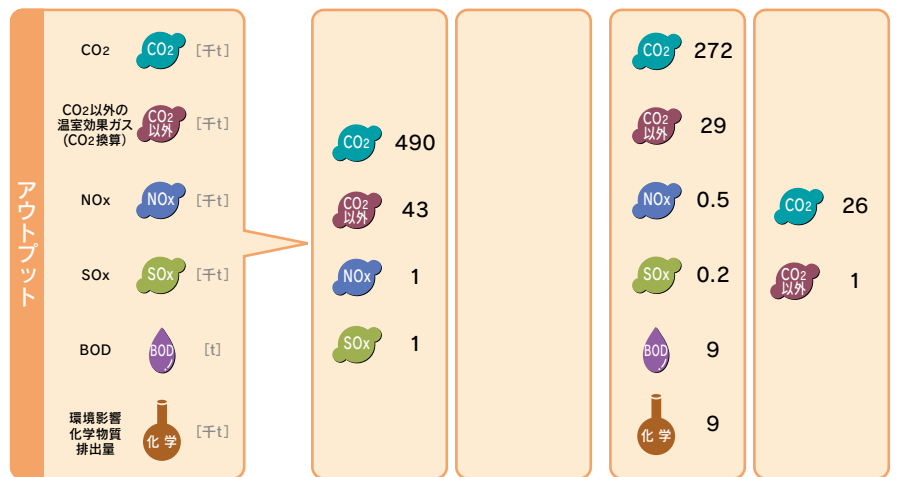
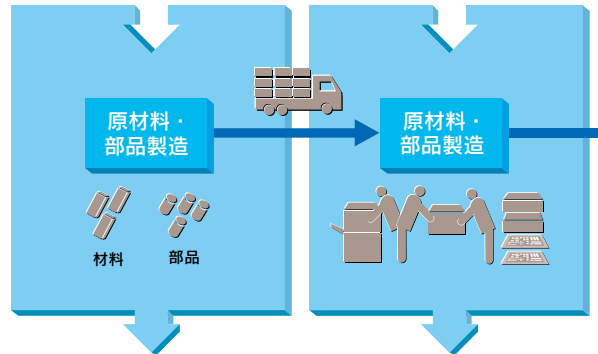
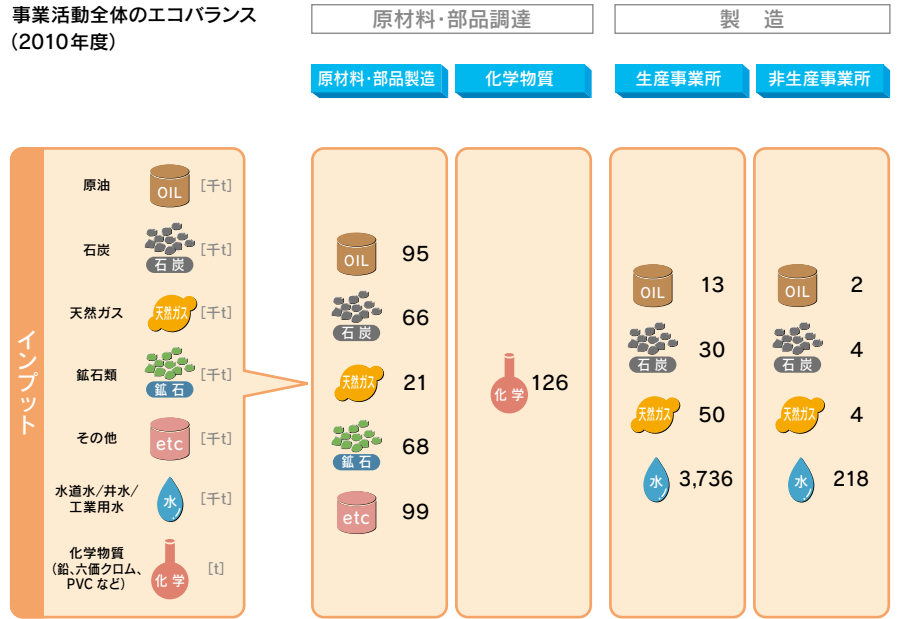
「事業活動全体のエコバランス」の評価範囲には、2000年度以降のM&Aなどの新規事業や新興国、開発途上国を含め、グループ全体の環境影響を評価対象としています。これに対して、5ページの「統合環境影響の推移(先進国向け事業)」では、2000年度を基準とした比較を目的とするため、新規事業、新興国、開発途上国の環境影響を除いて示しています。

※ LCAデータについて

● LCAデータ

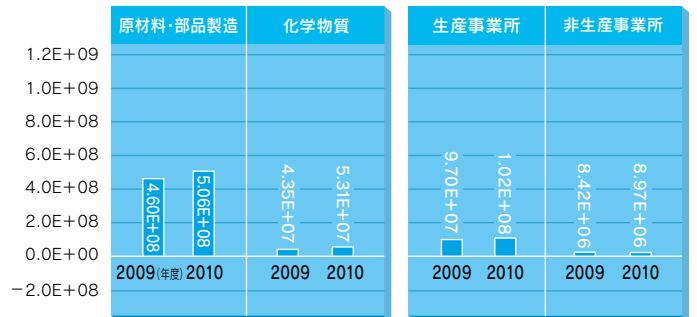
インベントリ分析データは、LCA日本フォーラムが公開しているJLCA-LCAデータベース(2006年度 第2版)をベースに、みずほ情報総研(株)様にデータ整理いただいたものを利用しています。

事業活動全体のエコバランス (2010年度)



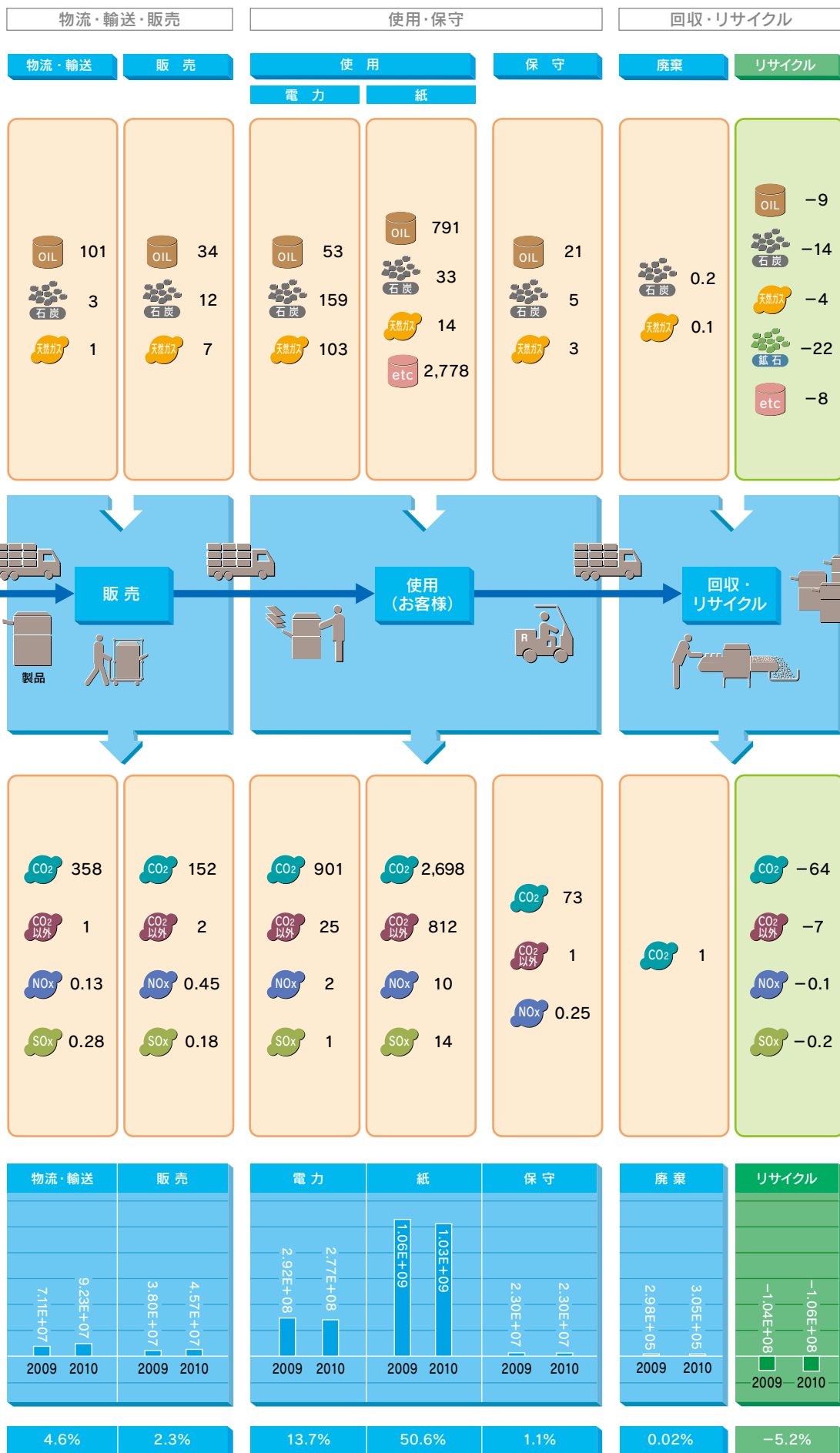
事業活動の環境影響を統合化した数値

単位: ELU



統合環境影響の割合(2010年度)





「E+n」は「×10ⁿ」を意味します。例) 1.45E+08=1.45×10⁸